



俳句はいくを読もう

五・七・五の音のリズムを楽しんで、様子を思いうかべながら、声に出して読んでみましょう。

春

すずめの子そこのけそこのけお馬が通る
スリッパをこえかねているこねこかな
そつぎよう
卒業の兄と来ている堤つみかな

小林 一茶 こばやし いっさ
高浜 虚子 たかはま きよし
芝不器男 しば ふきお

堤(土手)

夏

夏川をこすうれしさよ手にぞうり
しずかさや岩にしみいるせみの声
青がえるおのれもペンキぬりたてか

与謝 蕪村 よさき ぶそん
松尾 芭蕉 まつお ばしやう
芥川 龍之介 あくたがわ りゆうのすけ

おのれ
(おまえ)

秋

空遠く声あわせ行く小鳥かな
秋の蚊かのよろよと来て人をさす
名月やたたみの上にまつのかげ

炭 太祇 たん たいぎ
正岡 子規 まさおか しき
宝井 其角 たからい きかく

冬

こがらしや海に夕日をふきおとす
うまそうな雪がふうわりふうわりと
えりまきに首引き入れて冬の月

夏目 漱石 なつめ そうせき
小林 一茶 こばやし いっさ
杉山 杉風 すぎやま さんぷう